

本校が目指す5年後の姿（具体的目標）

【本校の現状と課題】

自然環境（海・山・大地）に恵まれた本県において、農林水産業は本県の産業の基盤であり、今後さらなる活性化を図っていかねばならない。その一翼を担う人材育成のため本校が果たさなければならない役割は大きい。海を臨む男鹿に立地している環境をしっかりと生かし秋田県を中心とした産業に関わる有為な人材の育成に努めたい。

- 1 普通科は、キャリア教育を通して社会に貢献できる人材の育成をめざすと共に、基礎学力の定着や資格取得に対する意欲向上が求められる。また、特色ある本校の学習環境を大いに活用し、海洋に関わる分野を学ぶことにより地域貢献の意識の向上を図ることも必要と思われる。
- 2 海洋科の使命は、持続可能な海洋資源の管理の大切さを理解した若手漁業従事者や海洋土木技術者の育成であり、そのために必要な知識と技術を獲得させることにある。海や海洋資源について学ぶとともに、一級小型船舶操縦士や潜水士などの資格取得を奨励し、海洋関連産業へより多くの人材を送り出すことが求められる。
- 3 食品科学科では食品の製造技術や管理方法を学ぶとともに、水産食品に関する基本的な知識や実践的な態度の育成を目指している。大切な海洋資源の有効活用を研究しながら、商品化に向けた実践的な取り組みを行うことが今後の課題である。

【本校を取り巻く将来の予測】

本校入学者の約7割を占める男鹿・潟上・南秋地区の中学校卒業生数は、平成29年3月卒は700名を割り込み、5年後の平成34年3月卒では約600名と約100名に近い大幅な減少が予想されている。

また、男鹿市では急激な人口減少と少子高齢化が進み、現在では人口が30,000人を割り、平成30年度の中学校卒業生は150名程度まで減少する見通しである。

【本校の目指す方向性や学校像】

1 地域に根ざした教育の継続

男鹿の豊かな自然、文化、歴史、産業など、地域の教育資源を有効に活用し、**地域に根ざした教育**を進めると共に、日本や世界を意識させ、自分の立ち位置を認識させる。

男鹿で学ぶことに自信と誇りを持ち、**自ら考え、判断し、表現する、主体性ある生徒**を育成する。

2 海とその恵みを活用した教育

三方を海に囲まれ、日本海に開けた男鹿半島の地理的環境を活用し、海洋科・食品科学科のみならず普通科においても本校の特色を生かした学びと共に、「海、水産物、船」を柱に据えた教育を行い、地域産業に貢献できる人材を育成する。

3 水産の六次産業化を学べる教育

水産物を漁獲し、加工から販売までの一連の学習を通して、いわゆる水産の六次産業化を学校全体で学ぶことができる教育を実践する。また、知財教育を学習に取り入れ新商品の開発に取り組みせることにより、豊かな発想力、新たな創造が出来る人材育成に努める。

4 各科の目指す方向性

〔普通科〕

早期に進路目標を確立し、部活動や資格取得に積極的に取り組む生徒を育成する。

部活動やボランティア活動に積極的に参加し、地域貢献できる人材を育成する。

豊かな創造力を育み、地域産業の活性化に貢献できる人材を育成する。

〔海洋科〕

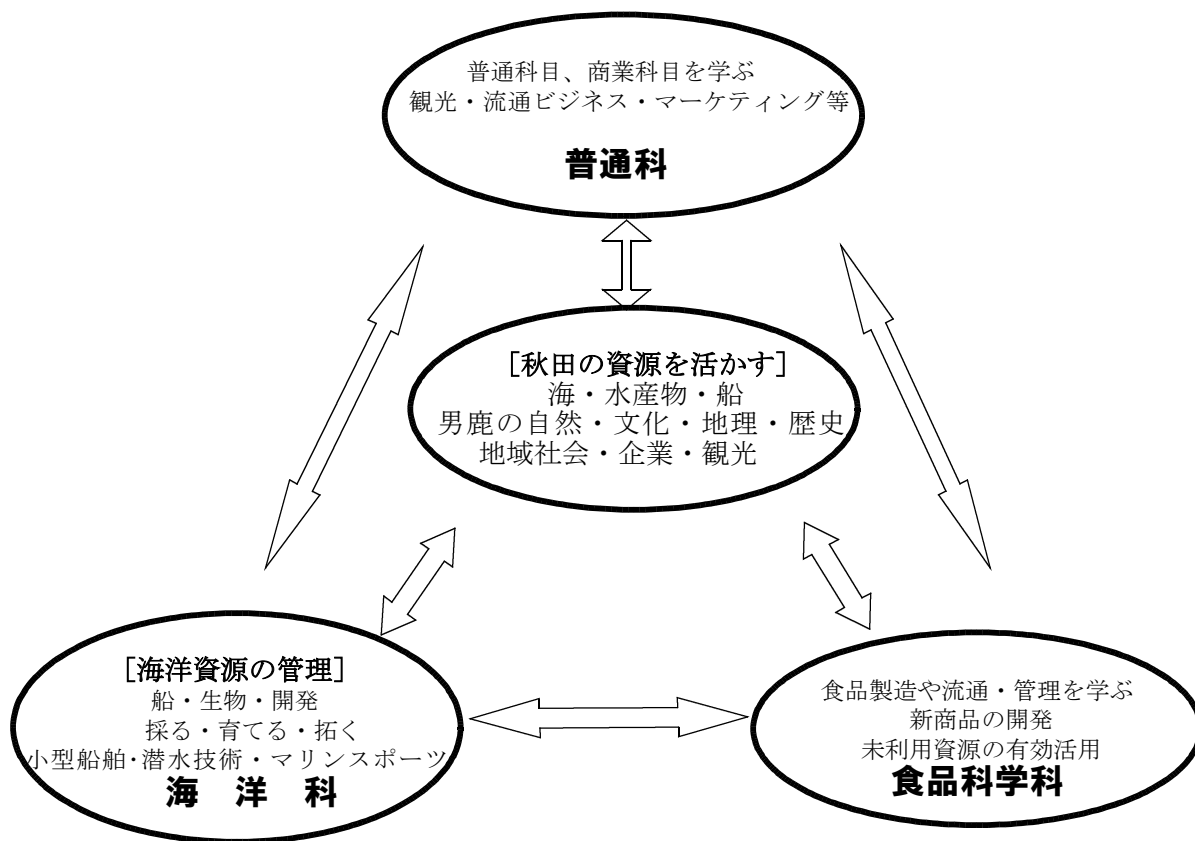
持続可能な海洋資源の管理の大切さを理解した人材を育成する。

小型実習船を活用し、沿岸漁業や海洋関連産業に従事できる人材を育成する。

潜水技術を活用し、海洋や港湾施設の管理や整備に従事できる人材を育成する。

〔食品科学科〕

水産物の加工や管理に関わり、地域産業の活性化に貢献できる人材を育成する。
豊かな創造力を身に付け、水産資源を有効利用し、活用できる人材を育成する。
水産加工実習を通して基礎的な技術を身に付けると共に、HACCPにおける衛生管理に
率先して取り組み、さらにはリーダーシップを発揮できる人材を育成する。



秋田の資源・男鹿を教材に学ぶ教育モデル

【 5年間で達成を目指す具体的目標】

- 1 部活動の活性化（加入率80%）
- 2 資格取得の充実
 - ①公的資格
 - 小型船舶操縦士（1級 合格率100%）
 - 潜水士（合格者 10名以上 合格率100%）
 - 2級ボイラー技士（合格率100%）
 - ②全国水産高等学校長協会主催検定
 - 水産海洋技術検定（合格率100%）
 - 食品技術検定第1類（合格率100%）
 - HACCP基本技能検定（合格率100%）
 - ③全国商業高等学校協会主催検定
 - ビジネス文書実務検定2級（合格率80%）
 - 簿記実務検定（合格率60%）
- 3 就職決定率（100%）